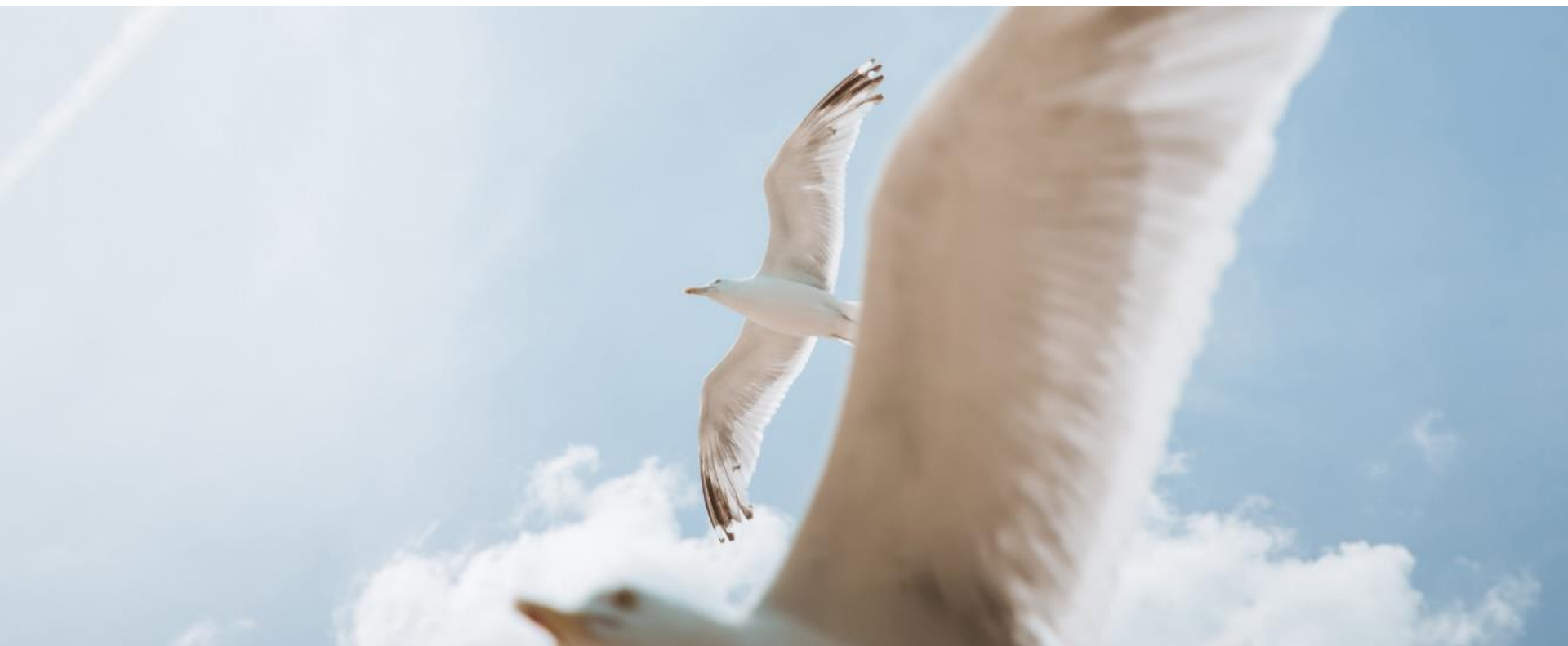


決算補足資料（2022年3月期）

2022年5月9日 / 株式会社 シグマクシス・ホールディングス（証券コード:6088）



2022年3月期 決算概況

サマリー

- 堅調な連結業績で予想値の達成率は連結売上高98%、経常利益102%。
- コンサルティング事業: DX戦略策定、新規事業やサービス開発、組織と人財の活性化など企業のトランスフォーメーションを支援するプロジェクトが事業を牽引。
- 投資事業: 投資先支援、新規投資の実行や資産の売却等、順調に事業展開。新規投資の規模は約12億円。

単位: 百万円	2021年3月期	2022年3月期	対前年同期 増減率	2022年3月期 連結業績予想	業績予想 達成率
連結売上高	14,024	15,654	+12%	16,000	98%
(コンサルティング事業)	14,024 (※1)	15,470 (※2)	+10% (※1)		
(投資事業)	—	334 (※2)	—		
経常利益	1,797	2,764	+54%	2,700	102%
(経常利益率)	13%	18%			
当期純利益	1,210	1,664	+38%		
自己資本比率	53%	70%			

※1 第3四半期より、「投資事業」の重要性が増したことから、「コンサルティング事業」、「投資事業」の2区分に変更。前年度連結業績をコンサルティング事業業績としたときの参考値

※2 セグメント間の内部売上高等含む

2022年3月期 連結業績予想と実績／年間配当金

- コンサルティング事業の稼働率上昇にともない営業利益が増加

単位:百万円	2022年3月期 実績	2022年3月期連結業績 修正予想 (2/7)	達成率
売上高	15,654	16,000	98%
営業利益	2,759	2,700	102%
経常利益	2,764	2,700	102%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,664	1,650	101%

- 2022年3月期年間配当金： 1株当たり26円(株式分割後は1株当たり13円に相当)

2022年3月期 連結損益計算書

単位:百万円	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比		主な増減
			増減額	増減率	
売上高	14,024	15,654	+1,630	+12%	
売上総利益	5,324	7,246	+1,921	+36%	<ul style="list-style-type: none"> ・稼働率の上昇により増加
販管費	3,576	4,486	+909	+25%	
営業利益	1,747	2,759	+1,011	+58%	<ul style="list-style-type: none"> ・対面活動の正常化に伴う諸経費の増加 ・持株会社体制移行に伴う子会社役員報酬の増加
経常利益	1,797	2,764	+967	+54%	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高の増加及び売上原価の減少により増加
税金等調整前 当期純利益	1,945	2,753	+808	+42%	<ul style="list-style-type: none"> ・関係会社株式売却益 ・ソフトウェア減損損失
当期純利益	1,210	1,664	+454	+38%	

2022年3月期 セグメント別業績 概況

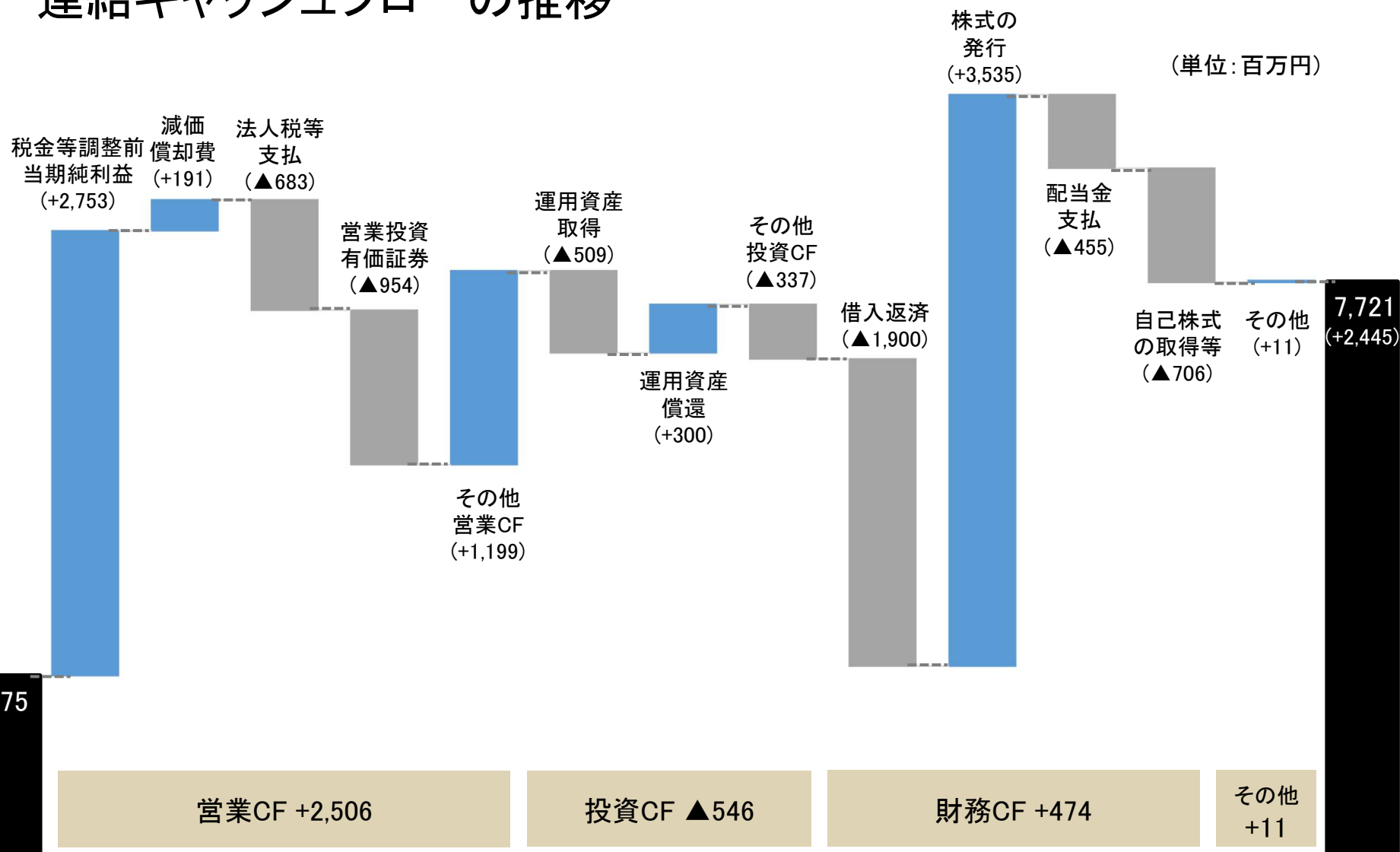
単位:百万円	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	
			増減額	増減率
連結売上高	14,024	15,654	+1,630	+12%
(コンサルティング事業)	14,024 (※1)	15,470	+1,445 (※1)	+10% (※1)
(投資事業)	—	334	—	—
(内部取引)	—	▲150	—	—
セグメント利益	—	4,425	—	—
(コンサルティング事業)	—	4,380	—	—
(投資事業)	—	45	—	—
売上高セグメント利益率	—	28%	—	—
(コンサルティング事業)	—	28%	—	—
(投資事業)	—	14%	—	—

※1 第3四半期より、「投資事業」の重要性が増したことから、「コンサルティング事業」、「投資事業」の2区分に変更。前年度連結業績をコンサルティング事業業績としたときの参考値

2022年3月期 連結貸借対照表

単位:百万円	2021年 3月期末	2022年 3月期末	対前期末	主な増減
流動資産	8,015	12,147	+4,131	・現金及び預金、営業投資有価証券の増加
現金及び預金	5,275	7,721	+2,445	
固定資産	2,267	2,509	+241	・本社オフィスリニューアルによる増加
資産合計	10,283	14,656	+4,373	・借入の返済、未払法人税等の増加
流動負債	3,239	2,764	▲474	
固定負債	1,581	1,589	+8	
負債合計	4,821	4,354	▲466	・第三者割当増資による増加
純資産	5,462	10,302	+4,839	
自己資本比率	53%	70%		

連結キャッシュフローの推移

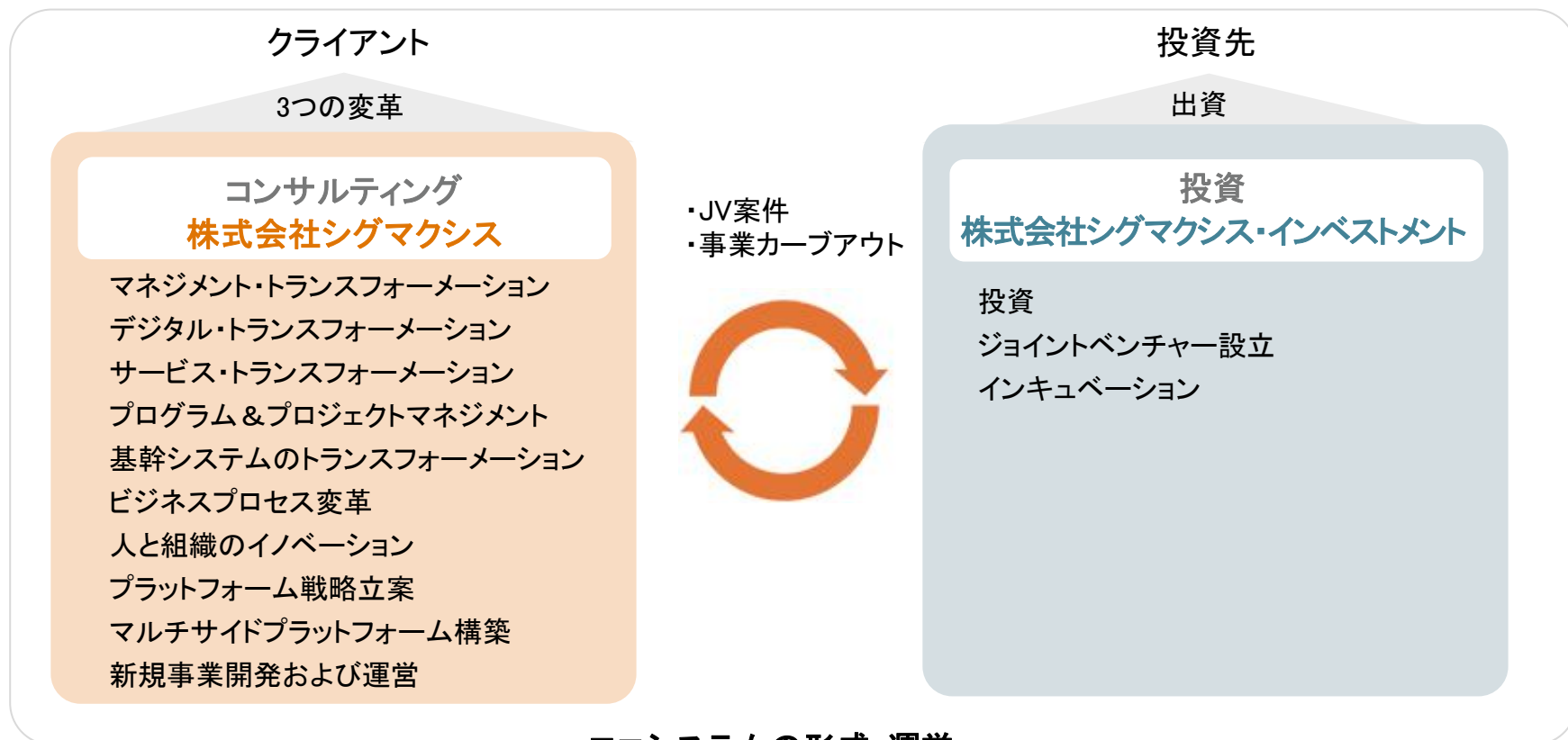


2021年度
期首

2022年
3月末

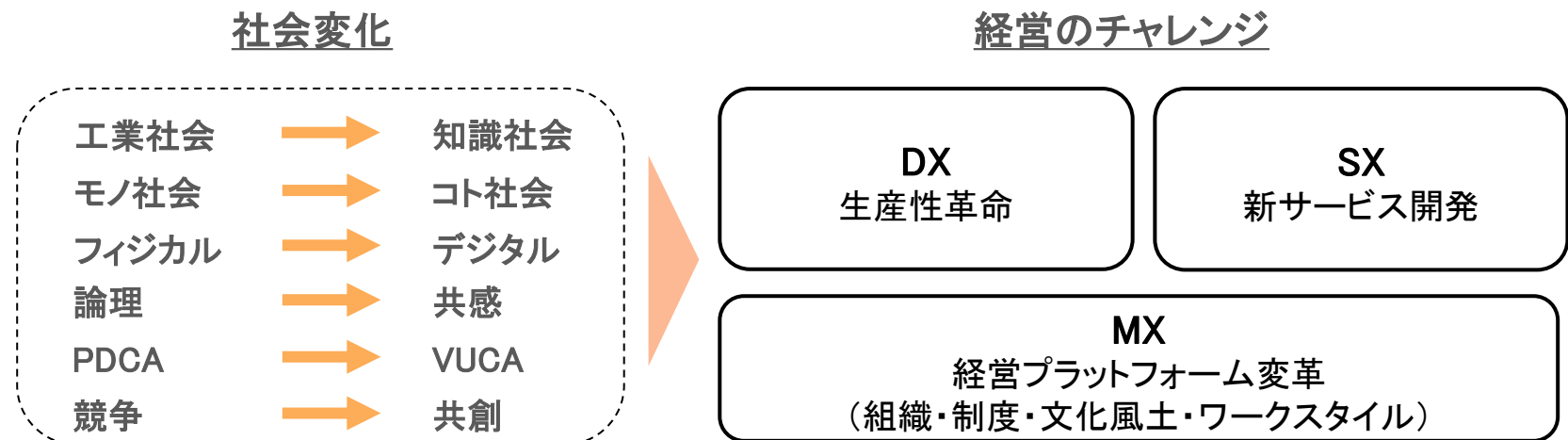
シグマクシス・グループの事業

- 「コンサルティングサービス」と「投資」を事業の軸とし、グループ各社が有するネットワーク力を生かしながら、幅広い産業および企業における価値創造、社会課題を解決する新たな市場の創出を行う。
- コンサルティング事業では、事業戦略立案、業務変革、デジタルテクノロジー、クラウドソリューション、プロジェクトマネジメントおよび新規事業開発のプロフェッショナルを揃え、新しい価値の創造を支援。
- 投資事業では、高度なデジタル技術の活用や、「まちづくり」「食・健康」など、複数の産業をつなぐ領域の投資案件を中心に手掛け、コンサルとの連携で投資先企業の成長および企業価値向上を支援。



デジタル経済下で企業が取り組むべき 主要なトランスフォーメーション(「3つの変革」)

- **マネジメント・トランスフォーメーション (MX: Management Transformation)**
事業に関わる人の自律性と心理的安全性を保障し、エンゲージメントを向上させ、継続的にイノベーションを創発して、迅速な個客対応を可能にするプラットフォームを構築する
- **デジタル・トランスフォーメーション (DX: Digital Transformation)**
コアビジネスモデルを変革し、生産性革命によって大幅な業績向上を実現する
- **サービス・トランスフォーメーション (SX: Service Transformation)**
新たな成長エンジンとなるビジネスモデルを成長市場で構築する



シグマクシス・グループ各社

社名	設立・事業開始・資本参加年 (JVパートナー、議決権割合)	事業内容
株式会社シグマクシス	2021年 (シグマクシス・ホールディングス 100%子会社)	企業のトランスフォーメーションを支援する コンサルティングサービスの提供
株式会社シグマクシス・インベストメント	2021年 (シグマクシス・ホールディングス 100%子会社)	<ul style="list-style-type: none">・株式、債券等への投資・投資事業組合の財産運用及び管理・企業経営及びM&Aに関するコンサルティング・価値創造を支援する投資業務全般
株式会社SXA	2014年 (シグマクシス・ホールディングス 100%子会社)	価値創造を支援するM&Aアドバイザリーサービスの提供
株式会社SXF	2019年 (シグマクシス100%子会社)	金融EDIに係る各種サービスの提供 電子決済等代行業者：関東財務局長(電代)第40号

2022年3月期第4四半期に、持分法適用関連会社である株式会社AnalySys.の株式を売却。連結対象外に。

AI Integration & Deployment(AID)プログラム

企業における最適なAI適用領域や、実行すべき施策、想定効果を明確化し、AI導入のための実現可能な計画を策定、実行までを支援し、AIによるビジネス競争力の獲得を実現。

当プログラムでは、プランニング、社内外の活用データ/分析基盤整備、データ解析の高度化・高速化、AI・ディープラーニングソリューションの選定および導入、エッジ・コンピューティングの推進といった、AI導入の全レイヤーをカバー。経験豊富なプロフェッショナルが、AIを活用したビジネス変革をエンド・トゥ・エンドでサポート。

詳細: <https://www.sigmaxyz.com/sx/business/aid/>

お客様事例

中古カメラの価格改定自動化支援(AIMD)
シュッピン株式会社

SYUPPIN®

シュッピン株式会社の中古カメラ事業にて、販売・買取価格改定をAIを活用して自動化するダイナミックプライシング(AIMD)の実現をご支援。

同社はAIMDの導入により価格改定の回数を6倍に増加させ、人的作業の削減とタイムリーな価格改定を実現。さらには価格変更に伴う顧客への通知メールが増えたことから、商機に繋がる顧客接点も増加。これにより、同事業の収益率は大幅に向上。



記事画像出所: 日経クロステック

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00001/06276/>

「新潟市 × フードテック」 生活者起点での協業創出

新潟市が2020年より推進しているフードテックを活用した産業活性化の取り組みを、2年にわたりシグマックスが支援。

歴史的に「農」と「食」が重要な産業である新潟市は、フードテックを活用した生活者起点での協業創出に向け、中長期計画を策定。金融機関や大学など、産学官連携を図るとともに、地域企業の相互連携による「共創プログラム」を企画・推進した。

シグマックスは、コンサルティング能力および自社のフードテック・コミュニティを軸としたネットワークを活用し、本取り組みのビジョン策定、コミュニティ立ち上げ推進、企業間連携、各企業による事業立ち上げ支援を行った。



「新潟市 × フードテック」
生活者起点での協業創出

新潟市のフードテック・コミュニティのビジョン

究極の“新”食体験で、 あらゆる人にハピネスを

- フードテック・アグリテックにより、誰もがプロシューマーになり、新潟食の体験の平等化(場所・時間・季節に捕らわれない)を実現する。
- やってみたいから小さく始められる、新たな食ビジネス創造のブースターになる。
- 新潟に根付く食の財産を発掘し、新しくアップデートする。
- 他地域とも与え合う関係を築き、食の創造性を世界に広げる。

・新潟市ウェブサイト フードテック・アグリテックの取り組みについて
https://www.city.niigata.lg.jp/smph/business/foodtech_agritech/index.html

アジャイル開発マネジメント

企業のSoR*領域の業務系システムの開発にアジャイルの手法を導入する『アジャイル開発マネジメントサービス』を提供。組織変革を前提としない実践的でスピーディなアジャイル開発を推進。これまで数々のプロジェクトにPMOとして携わってきた経験をもとに、アジャイル開発のメリットを享受しつつ、リスクや現場の混乱を最小化するノウハウを集約。

*SoR: System of Recordsの略で、主に記録することを目的とした社内システム領域を指す。(会計・経理、人事、受発注管理、製造管理等)

日経クロステック特集 寄稿連載

アジャイル開発の経験が少なく、中央集権型の日本企業において、組織や文化を変革せずにこれまで通りに開発ベンダーを活用しながら、SoR領域の業務システムのアジャイル開発を成功させるにはどうすればいいののか。「教科書」にはない、実務と事例をベースにしたノウハウを解説。

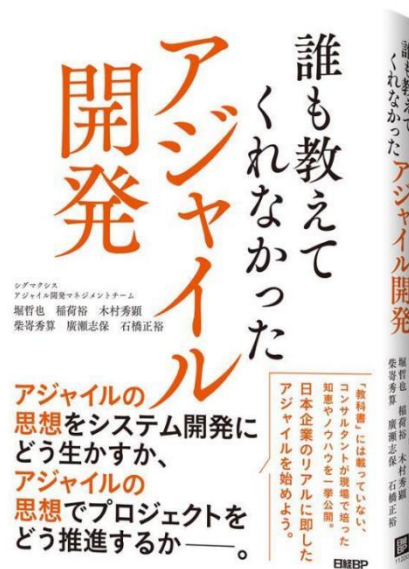


出所: 日経クロステックHP
<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/01562/>

連載好評により日経BPより書籍化

『誰も教えてくれなかったアジャイル開発』

(2022年4月発売)



Amazon
<https://www.amazon.co.jp/dp/4296112201>

株式会社シグマクシス・インベストメント: 投資事業

投資事業のバリューアップのため100%子会社「株式会社シグマクシス・インベストメント」を2021年4月に設立。複数の産業をつなぐ投資案件を中心に、コンサルティング事業との連携で投資先企業の成長および企業価値向上を支援。

2022年3月期においては、伊藤忠商事のネットワークを通じてウェルネス・コミュニケーションズ株式会社に出資。また、株式会社プログリット、株式会社eWeLL、自然電力株式会社に出資。

投資領域

地球資源を賢く活かしながら、人々の暮らしを豊かにする領域
(リジェネラティブ&ウェルビーイング)

投資先

提携先

 GHELIA

ギリア株式会社

 Creww
大挑戦時代をつくる。

Creww株式会社

Monstarlab ::

株式会社モンスター・ラボ

2022年3月期 新規投資

 ウェルネス・コミュニケーションズ
Wellness Communications

ウェルネス・コミュニケーションズ株式会社

 PROGRIT

株式会社プログリット

 eWeLL

株式会社eWeLL

 自然電力

自然電力株式会社

SX Capital

invest in wonder

株式会社SXキャピタル

startbahn



Empath

 Housmart

FERMENSTATION
Co., Ltd.
Fermenting a Renewable Society

株式会社
F²EVER



WELMO
WELLNESS

 bluememe
MODEL & DESIGN YOUR BUSINESS

 Fresco

フレスコキャピタル

www.sigmaxyz.com/sxi/

新たなまちづくりで東急株式会社と協働

東急株式会社と、多摩田園都市エリアにおける、生活者起点の新たなまちづくりに向けた取組み（nexus構想）の推進に関する基本協定書を締結。シグマクシス・グループの各社が連携し、東急と共同で本構想の実現に向けた活動を推進していく。

シグマクシス・グループは本構想において、最適なプレイヤーを集め連携を推進する「アグリゲーター」としての役割を担う。本構想の深化と改善に加え、本構想に共感し参画する行政や多様な企業（バディ）の招へい、バディ間の連携促進によるコンソーシアムの形成、本構想の理解促進に向けた勉強会の開催、実証実験および事業化の計画・実行支援、広報活動に取り組む。

実証実験および事業化においては、必要に応じてコンサルティングサービスの提供や投資による支援も行う。

「nexus(ネクサス)構想」

郊外における生活者起点での自由で豊かな暮らしを実現するために、住む・学ぶ・働く・遊ぶといった生活が自然や農と融合した「歩きたくなるまち」を目指す取り組み。

多摩田園都市（田園都市線梶が谷駅～中央林間駅）エリアのうち、横浜市青葉区・川崎市宮前区周辺を対象エリアとしてnexus構想を開始する。

2022年4月、川崎市・横浜市の市境近辺にある虹ヶ丘団地・すすき野団地エリアに「nexusチャレンジパーク早野」を開業。



nexusチャレンジパーク早野

関連リンク

- ・シグマクシス・ホールディングス プレスリリース
https://www.sigmaxyz.com/release_20220119/
- ・東急プレスリリース
<https://www.tokyu.co.jp/company/news/List/Pid=20220119-1.html>

日本の上場会社初、「B Corporation認証」を取得

シグマクス・グループの事業および活動に対し、「B Corporation(Bコーポレーション)認証」を取得。

78カ国において約4,500社が本認証を取得しており、当社グループの認証取得は、日本企業としては8社目、日本に本社を置く上場会社グループとしては初。(2022年1月時点)

B Corporation認証とは

環境や社会への配慮、経営の透明性、事業の持続可能性などにおいて優れた、公益性の高い企業を認証する制度。本認証の取得には、ガバナンス、コミュニティ、従業員、環境、顧客の5つの領域において、米国の非営利団体B Labが定める評価指標に基づいた評価で、80ポイント以上を獲得することが要件。



関連リンク

- ・シグマクス・ホールディングス ニュース
<https://www.sigmaxyz.com/news/>
- ・B Corporation ウェブサイト
<https://www.bcorporation.net/>

ソーシャル・マルチサイド・プラットフォーム構築活動

社会課題の解決に向け、従来型のコンサルティングの枠を超えて社内外の共感者・賛同者を集めてエコシステムを形成

【事例】 3Dバイオプリント技術の社会実装

株式会社シグマクス

- 大阪大学大学院工学研究科および島津製作所と、2022年3月に「3Dバイオプリント技術の社会実装」に向けた協業に関する契約を締結。
- 高いプログラムマネジメント能力と、フードテック・コミュニティをはじめとした多様な企業とのアライアンス・ネットワークを生かし、本協業におけるプログラム・マネジメント・オフィスとしての役割を担う。

三者共同プレスリリース:

大阪大学大学院工学研究科、島津製作所、シグマクス、
3Dバイオプリント技術で協業

～技術開発を加速し、環境・食糧・健康など社会課題の解決を目指す～

https://www.sigmaxyz.com/release_20220328/

ネイチャー誌記事広告掲載:

Cultivating gourmet meat in the lab

<https://www.nature.com/articles/d42473-022-00009-0>

大阪大学大学院工学研究科



2022年3月28日 記者発表

重要業績評価指標 (KPI)

	2021年3月期	2022年3月期	対前年同期比
従業員数	554	560	+1%
(コンサルタント数)	(481)	(478)	(▲1%)
プロジェクト満足度(NSI*)	94	94	+0pt
プロジェクト数 **	1,019	987	▲3%
クライアント数 ***	213	181	▲15%
契約あたり売上(百万円)	13.8	15.9	+15%

* NSI(Net Satisfaction Index): プロジェクト満足度評価における全10問、五段階評価結果の平均点。クライアントのプロジェクトオーナーにアンケート形式で実施。五段階評価は、5:大変そう思う 100点、4: そう思う 75点、3:どちらとも言えない 50点、2:そう思わない 25点、1:全くそう思わない 0点で配点。

** プロジェクト数: 連結累計期間を通じて売上が計上されたプロジェクトを契約単位で集計。

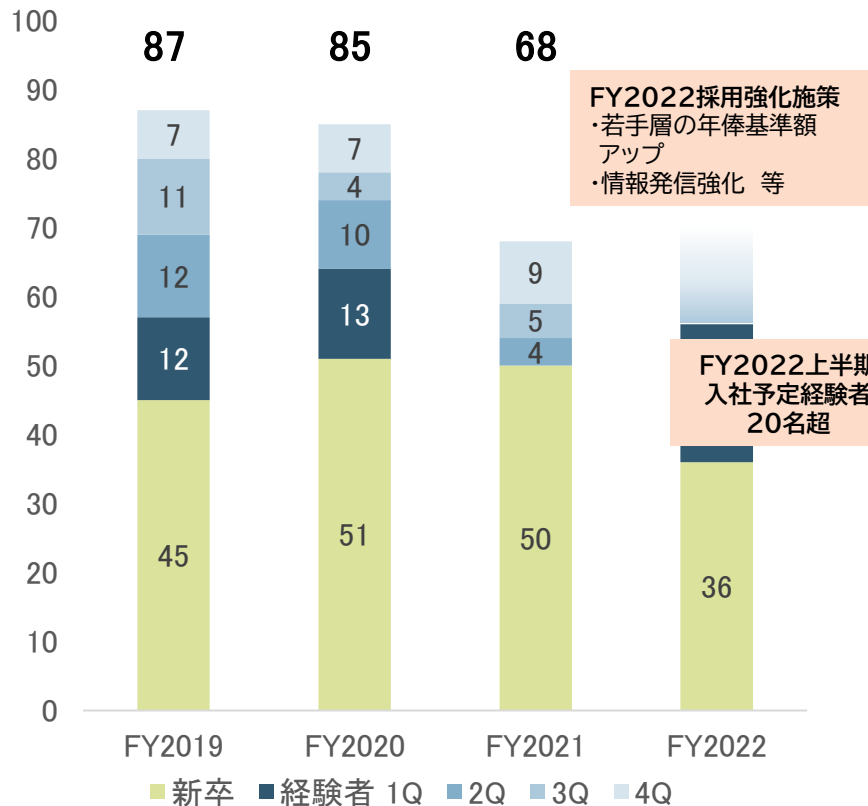
*** クライアント数: 連結累計期間を通じて売上が計上されたプロジェクトのクライアントを法人単位で名寄せして集計。

採用活動

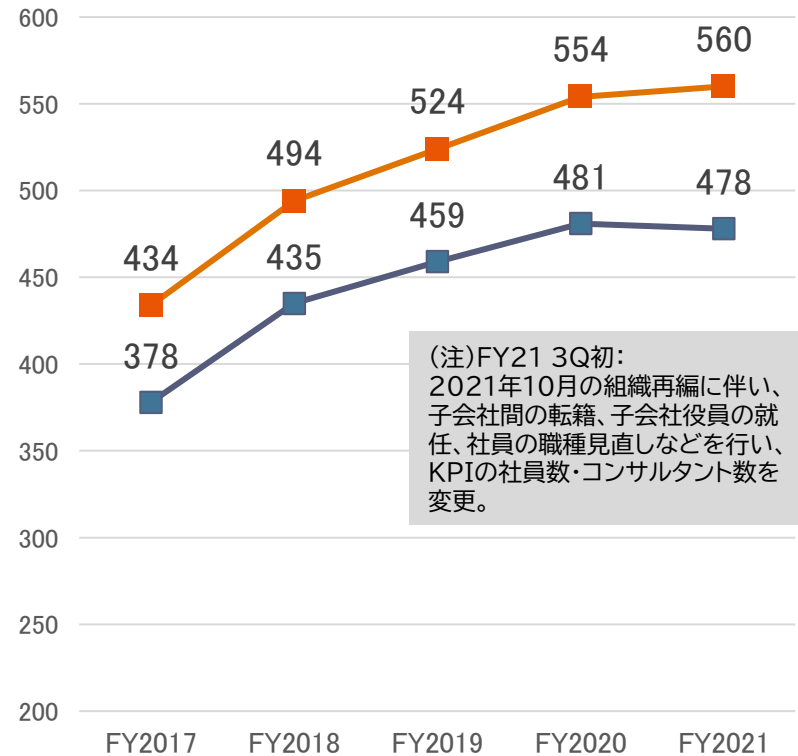
新卒は2022年4月1日に36名が入社。2023年3月期もより多くの優秀な人財の採用に向けた施策を強化。2023年3月期の経験者入社50名程度、2023年4月の新卒入社50名程度に向けて、採用活動は順調に進捗。

年間採用人数(コンサルタント)

単位:人



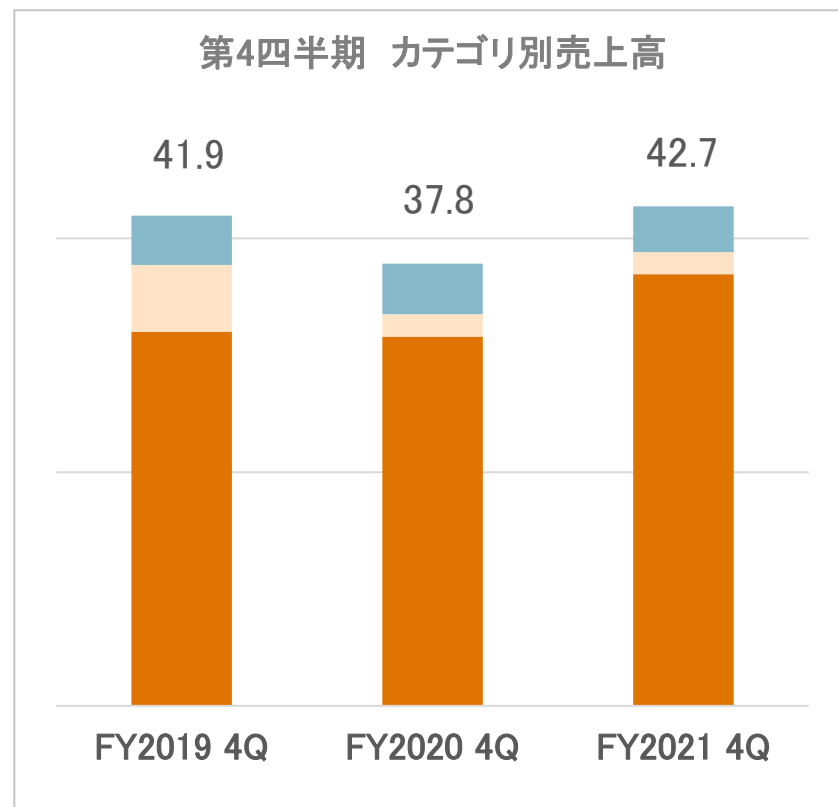
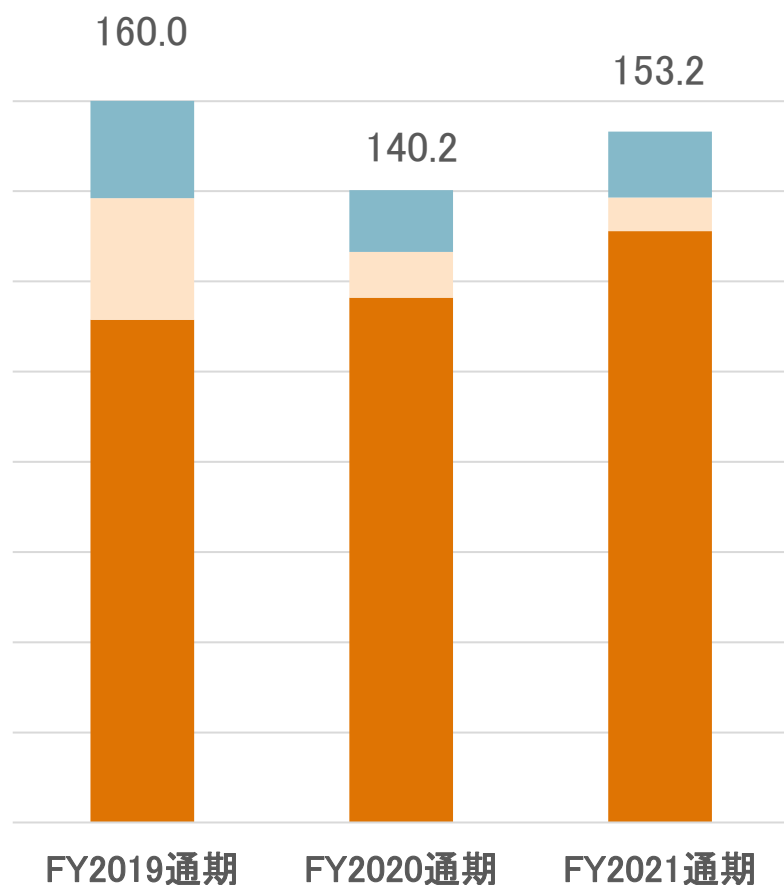
グループ社員数・コンサルタント数



(参考)カテゴリ別売上高

航空業界向けコンサルティングサービスが売上に占める比率の最適化、ならびに製品調達代行サービスの戦略的縮小など、ビジネスポートフォリオの再構築が過去2年で堅調に進捗。

(単位:億円)



- 製品調達代行サービス(プロダクトセールスを含む)
- コンサルティングサービス: 航空業界
- コンサルティングサービス: 航空業界以外

※内部取引を除く。FY2019およびFY2020は連結。FY2021はコンサルティング事業のみ(3Qよりセグメント別開示となったため、通期の数値も投資事業を除き再集計しております)。

2023年3月期 連結業績予想

単位:百万円	2023年3月期	対前期増減額	対前期増減率
売上高	17,200	1,545	10%
営業利益	3,180	420	15%
経常利益	3,180	415	15%
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,000	335	20%

連結業績見通しにおいて、投資事業はその事業特性から国内・海外の株式市場並びに新規上場市場の影響を強く受け、収益水準の振幅が大きくなる可能性があります。現時点で把握可能な情報に基づき業績予想を行っております。

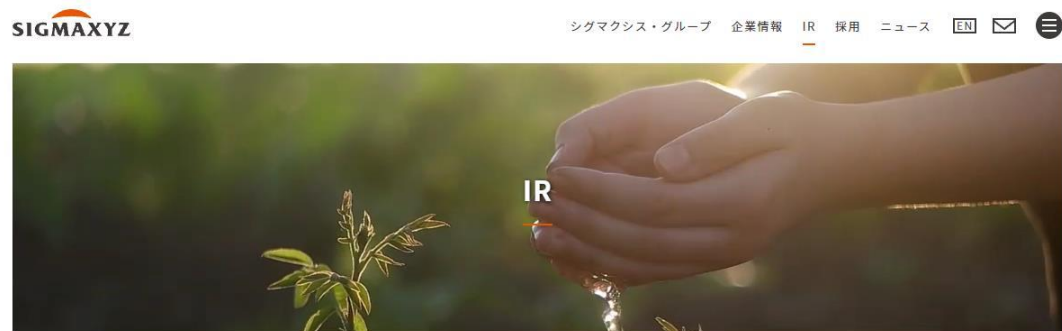
配当方針

- 財務体質の強化及び将来の事業展開に備えるために必要な内部留保とのバランスを重視する。
- 安定かつ継続的な配当を行う。
 - 2022年3月期 年間配当金
1株当たり 26円（株式分割後13円相当）
 - 2023年3月期 年間配当金
株式分割後1株当たり 15円

（注）上記の配当予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって変動する可能性があります。

(参考)決算補足資料の音声解説

決算発表当日の18時に、本資料の音声解説を弊社ウェブサイトIRページに掲載いたします。



IR情報

www.sigmaxyz.com/ir/



本資料の取り扱いについて

本資料は、シグマクシス・グループの事業および業界動向に加えて、現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性がつきまっています。すでに知られたもしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社シグマクシス・ホールディングスは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、本資料作成時点において利用可能な情報に基づいて、株式会社シグマクシス・ホールディングスによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

URL: www.sigmaxyz.com

問い合わせ先: sigmaxyz_ir@sigmaxyz.com

